

年度:2020年 LOM番号:11

【褒賞申請書】

事業名称	防災都市確立事業
カテゴリー	最優秀 LOM 長期型地域社会開発プログラム部門

申請LOM	東北地区宮城ブロック仙台青年会議所
LOMの人数	174名
理事長名	木皿 譲司
担当者名	文屋 恵輔
担当者携帯番号	08058407242 担当者Mailkei.bunya.seikoshoji@outlook.jp
事務局住所	宮城県仙台市青葉区本町二丁目16-12仙台商工会議所ビル8階
事務局TEL	022-222-9788 事務局FAX 022-222-9786

本事業の参加者	会員数	174名
	関係者数	20名
	一般参加者数	のべ275名
事業実施に至る背景 400文字程度	宮城県沖地震や東日本大震災を経験し市民と共に防災力の向上に取り組んで来た仙台市は、さらなる発展に向けて防災を基軸としたまちの創造が求められています。そのための施策の一つである地域の防災リーダーは年々高齢化が進んでおり、若い世代の育成とより多くの市民の防災意識向上が必要です。	
事業目的 400文字程度	防災都市として、LOM、行政、地域の連携力を高めます。 高齢化が進む防災リーダー（地域の防災スペシャリスト）の若返りを図ります。 地域特性のある災害に関する知識を多くの一般市民に伝え、防災意識を高めます。	
SDGsの該当項目	11 住み続けられるまちを 13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナーシップで目標を達成しよう	

<p>事業概要</p> <p>400文字程度</p>	<p>私たちは2018年より、災害に強い都市基盤の構築を目指し本事業を展開してまいりました。2018年度の防災学生サミットに続き、2019年度は地域、行政、企業、一般市民との連携基盤の強化を図りました。</p> <p>まず、学生が防災の知識と経験を得ていく過程で、町内会や行政と連携を深め三位一体となりました。そして、研修を経て防災力の高まった学生が主体となり、小学校で防災を子どもたちに伝えコミュニティの防災力を向上しました。学び、伝える経験を経て防災力の高まった学生は海外に赴き仙台の防災文化を広く発信し相互理解を深めることで、より防災力に磨きをかけ、グローバルな視点で防災を捉えられるようになりました。</p> <p>11月の公開例会では、一連の防災のプログラムで成長した学生による発表や講師によるフォーラム、一般企業によるブース出店など、仙台市民に広く発信しました。</p>	
<p>開催期間・ タイムスケジュール</p>	<p>2019年3月11日～2019年11月16日</p> <p>事業PR 2019年03月11日(月) 13:00～19:00</p> <p>学生面接 2019年04月21日(日) 13:00～17:00</p> <p>防災研修1 2019年05月25日(土) 10:00～18:00</p> <p>防災研修2 2019年05月26日(日) 12:30～18:00</p> <p>防災研修3 2019年06月25日(火) 10:30～12:30 2019年06月29日(土) 09:45～12:00 2019年10月24日(木) 09:40～12:25</p> <p>防災研修4 2019年07月13日(土) 13:00～16:00</p> <p>海外研修 2019年09月11日(水)～14日(土)</p> <p>公開例会 2019年11月16日(土) 12:30～15:55</p>	
<p>開催場所</p>	<p>仙台市、台南市(台湾)</p>	
<p>事業区分</p>	<p>継続(2018年～)</p>	
<p>公益・共益区分</p>	<p>公益事業</p>	
<p>事業総予算・収支</p>	<p>予算計: ¥2,195,000</p> <p>支出計: ¥2,032,211</p>	
<p>協力団体</p>	<p>共催</p>	
<p></p>	<p>協賛</p>	<p>新營JC、仙台市、国見連合町内会、台南市消防局 台南市台日友好交流協会、南台科技大学</p>
<p></p>	<p>後援</p>	
<p></p>	<p>その他</p>	<p>NHK、JCOM、DateFM、河北新報</p>
<p>事業対象者</p>	<p>事業参加学生、仙台市関係者、町内会関係者、一般市民、防災に取り組む企業、仙台市内小学生、台南市行政関係者、台南市大学生、仙台JCメンバー</p>	

<p>行動 (ACTION TAKEN) 400文字程度</p>	<p>(事業調査、立案、会議の流れ、実施活動、事業伍の活動について記入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■事業調査・・・防災リーダーは消防局など防災関係の職に就いていた方が退職されてから就いていることが多いという現状です。 ■立案・・・学生を募集し、地域や行政の協力のもと、研修を通して防災力を身につけ、その成果を公開例会で発表するという立案がありました。 ■会議流れ・・・予定者段階の2018年11月より仙台市と協議を始め、2月の理事会で審議を得て3月より実行しました。 ■実施活動・・・仙台市や町内会の協力のもと、学生に対し計4回の防災研修を行いました。 <p>台南市の協力のもと、両国の学生に対し海外での防災研修を行いました。公開例会にて、研修を終えた学生の発表や、各企業より防災ブースを出展していただき、市民の防災力向上を果たしました。</p>
<p>結果 (RESULT)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果により、海外を含む、市民一人ひとりがコミュニティ防災への参画意識を高めることの重要性を理解することができ、防災、減災の大切さ、自身の防災力の向上を実感したとの答えが90%をこえていました。 ・仙台市では本事業をきっかけにして、SBL(仙台防災リーダー)の若手部門の設立が市議会で決定されました。 ・仙台市、地域、学生、企業、LOMとの連携基盤を構築できました。 ・研修、公開例会での発表を経験した学生たちは、防災力だけでなく、リーダーシップやコミュニケーション能力を磨くことができました。
	<p>(この事業が与えた地域社会への影響を記入)</p>
<p>地域社会への影響 400文字程度</p>	<p>防災研修62名、海外発信事業43名、11月の公開例会約170名の動員があり、最後の公開例会ではテレビや新聞に取り上げられるなど、地域へインパクトを与えることができた。行政からも来年度以降の事業の継続を希望する評価とともに、SBL(仙台防災リーダー)の若手部門の設立が市議会で決定されている。さらに台南市との防災文化交流では、消防局と初めての協働となった。</p>

<p>LOMへの影響</p> <p>400文字程度</p>	<p>本事業により、学生、地域、行政、企業、LOMが協力して本事業を行ったことで、今後の連携基盤を構築できました。</p> <p>また、アンケート結果により、メンバーの防災意識は100%高めることができました。さらにメンバー一人ひとりがそれぞれの地域において市民とともに能動的に防災・減災の活動に取り組むことの重要性や、防災、減災の大切さの再認識をもらったことで、防災文化の価値を見出すことができました。</p>
<p>事業の長期的な影響</p> <p>400文字程度</p>	<p>若き能動的且つ機動力あふれる市民による、市民、地域、行政を巻き込んだ、防災を基軸とした持続可能なまちづくりに寄与し、自助、共助、公助が有機的に機能するまちを実現します。</p>
<p>考察や推奨</p> <p>400文字程度</p>	<p>(検証を踏まえた次の行動を記入)</p> <p>事業参加者、事業設営者の双方から体験を通じた防災・減災の学びは効果的で、震災を経験していない世代には現実味を与え、震災を忘れ始めている世代には風化の防止の効果が期待できます。今後も体験を通じた防災対策を講じる必要があり、東京のエリアは仙台市が今後取り組むべき姿であると思う。また、コロナウイルスの感染拡大にともない、避難所設営の在り方も変化してくると考える。3密を意識し感染防御力を高めた避難所設営には様々な弊害があり、世界から、日本の避難所は非常に原始的であると指摘を受けていたが、今回はそれを大きく見直す絶好の機会といえる。本事業で連携を深めた方々と、コロナウイルスを鑑みた避難所設営、避難対策を講じる必要がある。</p>
<p>改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な若い青年に最大限のより良い変化をもたらす機会を提供するために、希望した学生にはできる限り参加してもらえるよう、参加学生枠を拡げていきたいと考えます。 ・メンバー、学生が海外に赴いたときに、最低限のコミュニケーションが図れるように語学の勉強と、ノンバーバルコミュニケーションを学ぶ機会を創出します。
<p>JCI活動計画の推進</p> <p>JCI VISION活動計画の推進</p> <p>JCI MISSION活動計画の推進</p>	<p>(事業を通じて、行ったJCIに関する推進活動を記入)</p> <p>1)影響力</p> <p>防災研修62名、海外発信事業43名、11月の公開例会約170名の動員があり、最後の公開例会ではテレビや新聞に取り上げられるなど、地域へインパクトを与えることができました。行政からも来年度以降の事業の継続を希望する評価とともに、SBL(仙台防災リーダー)の若手部門の設立が市</p>

	<p>議会で決定されました。</p> <p>2)意欲 最初は自分を守る「自助」の知識しかなかった学生が、研修を通して「共助」、「公助」の目線を持つようになりました。</p> <p>また、地域の年配の方が積極的に事業に参加し、若い学生に教えてくれるようになりました。</p> <p>さらに仙台市が防災リーダーの若手部門を設立するなど、行政にも変化がありました。</p> <p>3)投資 台南市との防災を通じた国際交流については非常に有効なお金の使い方ができました。また、公開例会では、本事業に賛同していただいた講師や企業のブース出展には一切費用がかかっておりません。</p> <p>4)協働 仙台市には各研修と公開例会において、講義やブースを展開していただいた。</p> <p>地域を代表する防災リーダーの方には実際に講義や実践をしていただいた。</p> <p>企業からは研修や公開例会においてグッズやブースを展開していただいた。</p> <p>5)つながり LOM主体の本事業により、学生、地域、行政、企業が一体となって連携を深めることができた。</p> <p>「ミッション」 町内会や行政の協力のもと、地域の将来を担う若者を中心に防災力向上のための研修を行い、海外や公開例会での発信することで、防災知識だけでなく、リーダーシップやコミュニケーション能力の成長をもたらす機会を提供できました。</p> <p>「ビジョン」 LOM主体の本事業により、学生、地域、行政、企業が一体となって連携を深めることができた。</p>
<p>添付資料 PDF資料2MB、5ページ以内</p>	<p>(事業風景写真、新聞記事、参加者や協力者から寄せられた感想文 など)</p>



町内会との会議

仙台市の担当課には、ほぼすべての会議や研修に協力していただきました



事業PR

2019年03月11日のキャンドルナイトでの事業PRには仙台市長にもご協力いただきました。



防災研修

座学だけでなく、実習や屋外、海外で行うことでより多角的に防災について学ぶことができました。





公開例会 ～仙台JCI防災フェス～



2019年11月に開催された公開例会では、約170名の来場者がありました。研修を経た学生からの発表や、外部講師を招いたフォーラム、本事業に賛同していただいた防災に取り組む企業のブース等で盛り上がりを見せました。





<市民が繋がる防災都市づくり>

<防災都市確立事業>

公益社団法人仙台青年会議所は2019年03月11日月曜日から2019年11月16日土曜日にかけて「防災都市確立事業」をく仙台市内各所および台南市>にて行いました。詳細の内容につきましては、下記内容をご覧ください。

この<防災都市確立事業>はく2018年より災害に強い都市基盤の構築を目的として展開しており、2019年度は、行政、地域、企業との連携力を高めること、高齢化が進む防災リーダー(地域の防災スペシャリスト)の若返りを図ること、地域特性のある災害に関する知識を多くの一般市民に伝え、防災意識を高めてもらうこと>を目的として開催されました。く行政、地域、企業が一体となって本事業を展開し、海外での参加者を含む、市民一人ひとりがコミュニティ防災への参画意識を高めることの重要性を理解することができ、防災、減災の大切さ、自身の防災力の向上を実感し、さらに仙台市では本事業をきっかけにして、SBL(仙台防災リーダー)の若手部門の設立が市議会で決定される>という結果、目的を達成する事ができました。

<p><u><防災都市確立事業>とは？</u></p>	<p>写真1</p>  <p>町内会との会議 仙台市の担当課には、ほぼすべての会議や研修に協力していただきました</p>  <p>事業PR 2019年03月11日のキャンドルナイトでの事業PRには仙台市長にもご協力いただきました。</p>
<p>詳細な事業内容 期日:2019年03月11日~2019年11月16日 会場:仙台市内各所および台南市 (事業内内容) 私たちは2018年より、災害に強い都市基盤の構築を目指し本事業を展開してまいりました。2018年度の防災学生サミットに続き、2019年度は地域、行政、企業、一般市民との連携基盤の強化を図りました。</p>	<p>写真2</p>

まず、学生が防災の知識と経験を得ていく過程で、町内会や行政と連携を深め三位一体となりました。そして、研修を経て防災力の高まった学生が主体となり、小学校で防災を子どもたちに伝えコミュニティの防災力を向上しました。学び、伝える経験を経て防災力の高まった学生は海外に赴き仙台の防災文化を広く発信し相互理解を深めることで、より防災力に磨きをかけ、グローバルな視点で防災を捉えられるようになりました。

11月の公開例会では、一連の防災のプログラムで成長した学生による発表や講師によるフォーラム、一般企業によるブース出店など、仙台市民に広く発信しました。

防災研修

座学だけでなく、実習や屋外、海外で行うことでより多角的に防災について学ぶことができました。



写真 3



公開例会 ～仙台JIC防災フェス～



2019年11月に開催された公開例会では、約170名の来場者がありました。研修を経た学生からの発表や、外部講師を招いたフォーラム、本事業に賛同していただいた防災に取り組む企業のブース等で盛り上がりを見せました。